

令和3年度 第2回鶴見・あいねっと（鶴見区地域福祉保健計画）推進委員会 議事要旨

日時：令和3年11月5日（金）14：00～15：30

場所：鶴見区役所1階 予防接種室

推進委員：杉浦委員長、八森副委員長、

石井委員、板山委員、押山委員、門脇委員、烏田委員、小林委員、斉藤委員、
富樫委員、福井委員、藤田委員、増子委員、渡邊委員

（欠席：川合委員、神保委員）

事務局：【区役所】

鶴見区長、福祉保健センター長、福祉保健センター担当部長、
福祉保健課長、高齢・障害支援課長、こども・家庭支援課長、
生活支援課長、生活支援課担当課長、区政推進課長、
高齢・障害支援課地域包括ケア推進担当係長
福祉保健課事業企画担当係長、事業企画担当職員

【区社協】

副会長（会長代理）、事務局長、事務局次長、事務局職員

1 開会（進行：福祉保健課事業企画担当係長）

写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認

2 鶴見区長あいさつ

新型コロナウイルスの関係で第1回目の会議から3ヶ月が経ち、鶴見区の取り巻く環境も変わっている。このような状況では、今回のあいねっとの基本理念にもなっている、地域の中でのたすけあい・支え合い・人と人とのネットワークが重要になってくる。今回は、区地域福祉保健計画に加えて地域包括ケアのアクションプランについても御審議頂く。それぞれ、忌憚ない御意見をお寄せいただきたい。

3 区社協副会長あいさつ

今回の会議での、皆様の御意見を通じて、色々と勉強させて頂きたい。本日は、どうぞよろしくお願いしたい。

4 委員及び策定検討プロジェクトメンバーについて

（説明：福祉保健課事業企画担当係長）

資料（鶴見・あいねっと推進委員会委員名簿）に基づき、推進委員及び策定検討プロジェクトメンバーの馬場地域ケアプラザ所長が、9月末で異動したことに伴い、委員を退任されたことを説明。後任は着任しているが、同じ地域ケアプラザ所長の立場で参加していただいている駒岡地域ケアプラザ所長がおられることから、今年度は退任の委員を除く16名で進めていく。

上記について、委員からの異議はなし。

5 議事（進行：八森副委員長）

（1）第4期鶴見・あいねっと策定スケジュールについて

（説明：区社協事務局次長）

資料（第4期鶴見・あいねっと策定スケジュールについて）を基に、今回の推進委員会をはじめ、区民意見募集及び今後の策定検討プロジェクト、第3回推進委員会の開催時期について、当初の予定からそれぞれ1カ月延期させていただきたい旨を説明。

また、計画は令和4年3月までに内容を策定し、令和4年6月頃に公表を行わせていただきたい。公表に合わせて開催を検討していた鶴見・あいねっと推進フォーラムについては、開催中止とし、公表する6月に合わせて、PRイベントを企画していく。なお、区民意見募集については、11月20日から開始させていただきたい。

(進行)

事務局からの説明に対して、何かご意見、ご質問等はありませんでしょうか。
→特になし。

(2) 第4期鶴見・あいねっと区(全体)計画の素案について

(説明：福祉保健課事業企画担当係長)

資料(第4期 鶴見区地域福祉保健計画(鶴見・あいねっと)素案)を基に、前回、第1回推進委員会で頂いた意見に加え、関係機関に照会した意見を反映させ、業者によるデザインを一部加えていることを説明。今回意見をいただく際には、計画内容に加えて、原稿の“見せ方”についても意見を頂きたい。

【前回案から検討を加えた点及び補足】

- ・文中にある「障害者」という表現について、その一部を文脈に応じて「障害のある人」と変更。
- ・推進の柱と推進の土台の掲載順については、各推進の柱から地域活動に共通する要素を抽出し、土台として構成した経緯がある。それぞれの柱と密接に関連していることを示すために、順番は変更せず、引き続きこの順で示す。
- ・コラム欄は、関係団体等へ現在作成を依頼しているため、意見募集を行う素案からは差し引いている。また、コラムには少なくとも1点以上、活動の様子が分かる写真を掲載予定。
- ・1章からの全見開き右側のページに、索引を設け、現在のページの位置をわかりやすくした。
- ・推進の柱1「地域ケアプラザの取組」欄に、地域の状況を踏まえ、地域住民の取組へのコーディネートや支援を行っている旨を追加。
- ・推進の柱3「区役所の取組」に、学校と連携し、他者への思いやりや自分を大切にする心を育む取組を進める記載を追加。
- ・第4章「地区別計画」について、今回のスケジュール変更に伴い、区全体計画と地区別計画の公表時期が重なるため、18地区別計画を分冊とせず、一括公表することを引き続き検討していく。
- ・区民意見募集について、はがき・FAX・電子メールに加えて、2次元バーコードを追加し、スマートフォン等からでも意見を受け付けることができるようにした。

(進行)

事務局から説明があった点について、各委員からご意見をいただきたい。

(委員)

推進の土台にある、「自分で、地域で、始められる種まき」がとても良いと感じた。他の取組と比べ、日常生活で取り組めるなど感じる。コロナ禍で、地域活動が思うようにできない状況が続く中、フードドライブのように無理せず、皆が一人一人協力し合えるような取組が重要だと感じる。

(進行)

「自分で、地域で、始められる種まき」に記載のある取組例が、委員のお考えと合って

おり、具体的に生活に取り込んでいけるような内容であるというお話だったと思う。それでは次の委員、お願いいたします。

(委員)

全体としてインデックスがついて見やすくなったと感じる。コラムについても写真を載せると幅広い年代の方に見てもらえるのではないかと思う。地域ケアプラザの健康づくりの機会を増やす取組について、会場はケアプラザだけでなく、地域の身近な場所で行っていることをより紹介していただけるとよい。

(進行)

具体的な改善点を挙げて頂いたと思う。文章については、事務局で検討をお願いしたい。それでは次の委員、お願いいたします。

(委員)

前回の委員会での意見が反映されており、意見を取り入れ、理解してもらえたと感じた。一時預かり事業は、コロナの波が落ち着き、需要がとて増えている。まめっこひろばでも、自主的な活動を再開することを検討しており、再開の際には、地域の様々な主体との繋がりを活かしていきたい。

(進行)

前回の議事内容がしっかり反映されているということだったかと思えます。このような声が届いたという感覚は、区民意見募集実施後に、その意見をさらに反映出来れば、他の一般市民からも出てくると思う。御意見ありがとうございました。それでは次の委員、お願いいたします。

(委員)

コラム等に写真を多く使用してもらえるということなので、ぜひお願いしたい。推進の土台のうち、人材(未来の担い手づくり)の部分は我々が最も関心を寄せる内容。高齢化が進み、スポーツ推進委員・青少年指導員・こども会といった、地域の他の団体でも、若い世代の人たちが少なくなってきた。16 ページにある、地域活動に参加してよかったと思うことに係るアンケート結果で「新たな友人・知人を得ることができた」とあるが、自分も最初 40 歳を過ぎて地域活動を始めて、最初は友達ができるのだろうかと思ったが、良い友人が沢山できた。より多くの人たち、特に若い世代の方たちが地域活動に関心を持てる、参加してもらえるような内容にして頂きたい。

(進行)

若い世代の方々にも地域活動に関心を持ってもらえるような内容をお願いしたいとお話をいただいた。それでは次の委員、お願いいたします。

(委員)

素案について、全体的にとてもよくできている。コラム欄を充実させることで関心や親しみをもって読んでもらえる冊子になると思う。これからもよろしくお願いしたい。

(進行)

ありがとうございました。それでは次の委員、お願いいたします。

(委員)

全体的に、言葉の問題など適切に直して頂いたと思う。

神奈川県では、当事者目線に立った県立施設のあり方や、福祉関連計画の策定・検証の際に、いかに知的障害のある人の意見や声を、当事者目線に立って計画に位置付けていくかという取組が進んでいる。障害のある人・当事者が計画の内容を理解できるような分かりやすさがより大切になってくると思う。

また、コロナ禍の中、ワクチン接種を受けられない、マスクをつけることができないなど、障害のある人ならではの課題があるが、当事者が声をあげにくい環境になっている。こうした小さな声をかき消さないでほしい。これらの声を受け止めていくために、様々な主体がパートナーシップを形成しながら地域共生社会の実現を目指して頂きたい。

(進行)

ありがとうございました。当事者視点で、この計画がうまく伝わったりあるいは計画の集約が出来ればというご意見を頂いたと思う。それでは次の委員、お願いいたします。

(委員)

全ページの右端にインデックスを配置したことで見たいページをすぐ見ることが出来るように構成されている。

民生委員・児童委員が主に関連している18ページ、19ページについては、コロナ禍を踏まえ、新たにゆるやかな見守りについても丁寧に記載されている。コラムも掲載されれば、よりこれからの地域づくりが分かる内容になると思う。

(進行)

見やすい内容になっているというご意見と、コラムの内容についても期待したいというご意見をいただいた。

それでは次の委員、お願いいたします。

(委員)

コロナ禍で色々な会議や事業が中止となったり、わっくんひろばでは利用を予約制にしてみたり、入場制限をしてみたりと大変特殊な期間を過ごしている。

冊子について、土台のページにある、「地域で、自分で、種まき」はとても良いと思う。

また、12ページにある、推進の柱1の区役所の取組に、子育てサポートシステムの運営支援をあげて頂いている。コロナ禍の中で子どもを預かることのできる会員は激減している一方で、預けたい人は増えているので、支援はありがたい。

若い世代の地域参加について、若い人は自分たちのことで精一杯の状況がある。

わっくんひろばや子育てサポートシステムも地域のボランティア精神で成り立っている。行政が提供するただのサービスではなく、地域の様々な人が実は関わっていることを、冊子を読むことで理解していただき、最初はサービスを受ける側から、サービスを提供できる担い手側になっていけるような工夫があると良い。冊子の意見募集についてもQRコードが配置されており、素早く行えるようになっていて良いと思う。

(進行)

冊子をきっかけに、多くの方々が地域について関心を持ち、地域にある、様々なつながりが見えるようになれば良いなというご意見だったかと思う。

それでは次の委員、お願いいたします。

(委員)

資料の構成について伺いたい。目次を見ると、推進の柱1「つながりのある地域づくり」と推進の土台「人材」のように、それぞれの柱と土台がセットになって構成されている。しかし、土台の「人材」、「場・機会」、「相互理解」は3つの柱に共通する要素のはず。柱と土台の1要素をセットにして並べている理由を教えてください。

(進行)

事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

ご指摘いただいた、推進の柱と推進の土台は、全体を一体的にご理解いただきたいと考えている。例えば、推進の土台の「人材」について、元々この要素は、前第3期計画の柱である、「つながりのある地域づくり」の中に溶け込んでいた。今回検討していくにあたって、より普遍的なものを推進の土台として抽出したため、その出自を踏まえた構成となっている。

(委員)

各推進の柱から抽出されたもので、外見は土台と柱は一緒になっているが実は各土台と柱は別物であり、3つの要素を全体として一つの土台となるという理解でよいか。

(事務局)

おっしゃっていただいた内容で間違いはない。事務局としては、冊子全てを読んで理解を頂けるようにしたいと考えているが、読み手によっては土台の一部のみを読み込みたい方もいると思われるため、要素一つだけでも読み込むことが出来るように独立させている。

(委員)

加えて8ページにある、土台として挙げた3つの要素について、どのような課題意識を抱き、抽出したのかを教えてください。

(事務局)

各土台を抽出していった際の考え方は、5ページの「次期計画に向けて」に記載させていただいている。更に、それぞれの土台の見開きのページ、1の「取り組む理由」にも取り上げた背景・理由を記載させて頂いている。

(進行)

ありがとうございました。区民の方が深く読み込んだ場合に、みなさんが気になるであろう点について質問していただいたと思う。ここにいる委員の皆様が区民のみなさんや関係している方に説明していくことでこの点についても理解が深まっていくのではないかと思う。

それでは次の委員、お願いいたします。

(委員)

担い手づくりや、障害者の集まれる場所づくりが盛り込まれており、大変嬉しい。普段から、知的障害者の家族は人の助けを必要としている。コロナ禍の中、ワクチン接種

なども様々な人の力を借りて乗り切った。人の力や人間関係はとても大切に、担い手づくりの項目などはとても良い。冊子も、前回に比べて見やすくなっている。コラムなどが後で配置されるとより見やすくなると思うので期待したい。

(進行)

ありがとうございました。続きまして次の委員、お願いいたします。

(委員)

保健活動推進員としては、推進の柱3に関連する活動を主に行っている。赤ちゃん会のお手伝い、親子の居場所支援、高齢者の体操教室など、様々な世代に向けて、健康推進をしている。昨年度は、地域でのウォーキング大会は中止となったが、今年度は再開している地域も出てきている。生麦第二地区もこれから人数を縮小して、ウォーキング大会を行う予定。他、健康づくりの取組として、様々な病気に対するフレイル予防について、勉強会などを行っている。地域では、緊急事態宣言下の中でも活動再開を望む声も多く、宣言が解除になってからは体操教室などを再開した。

(進行)

現在の保健活動推進員の全般的な活動報告を頂いた。続きまして次の委員、お願いいたします。

(委員)

保健活動推進員の活動として、小学校や中学校に訪問し、対話を行う機会があった。子どもたちからは、「地域でどのような活動を行ったら喜ばれるか」と聞かれ、「地域でお年寄りに元気に声をかけてあげてほしい」と伝えた。子どもたちからすれば特別なことではないかもしれないが、お年寄りからすると、心のケアにもなるし、地域の見守りにも繋がっていると話させていただいた。他にも、町内の色々な催し物に参画するにはどうすればいいのか聞かれるなど、子どもたちも地域活動に関わろうと思ってきている。

16 ページの推進の土台にある、未来の担い手について、保健活動推進員をはじめとした地域で活動する方々は誰もが、次の担い手をどうすればいいかを常に考えていると思う。まずは地域の行事への参加や、挨拶・声掛けなど、できることから始めてもらい、地域に関わってもらうことが重要。そのためには、地域で我々活動者が、声掛けなど地域で出来るちょっとしたこともあいねっとの取組だということも多くの方々に話しして広げ、伝えていく必要がある。

(進行)

あいねっとについて、子どもたちをはじめとしたさまざまな人達に伝える役割を我々活動者は担っているということをご報告いただいた。続きまして次の委員、よろしくお願い致します。

(委員)

生麦第二地区連合町内会では、コロナ禍でも花火で皆様を元気づけようと二回ほど打ち上げた。各連合で色々な取組を行って頂いているが、新型コロナが収束した際に地域活動を再開できるように力を蓄えて活動を続けていきたい。

(進行)

ありがとうございました。

まとめとして、区計画全般については、見やすい、分かりやすい、前回委員会での意見が反映されている内容になっている、というご意見が多かったと思う。

本日皆様に議論を頂いたうえで、この計画案を素案として決定したいと思います。よろしいでしょうか。

→異議なし。

委員からは、コラムについても度々お話があったかと思う。コラムを活用し読者の気持ちを惹きつける内容にしてほしい。

また、前回推進委員会で話が出ていた定量データの更新についても、反映できるものが有れば反映頂ければと思う。

それではこの内容を基に区民からの意見募集を行い、その結果を踏まえて令和4年1月策定検討プロジェクトを開き、本計画の内容を引き続き検討していきたいと思えます。

(3) 横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた鶴見区アクションプランの策定について (説明：高齢・障害支援課地域包括ケア推進担当係長)

別紙資料(「横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた鶴見区アクションプラン素案」及び「横浜型地域包括ケアシステム構築に向けた鶴見区アクションプランの策定にあたって(補足資料)」)に基づき説明。前回の推進委員会から変更した点及び地域福祉保健計画とアクションプランの違いについて説明した。この資料は、持ち帰っていた。ご意見があれば11月19日までに高齢・障害支援課までいただけるよう依頼した。引き続き関係者に意見を伺い、来年2月に予定されている第3回推進委員会で最終案を審議頂き、3月に完成予定。

(進行)

色々な意見を反映し、修正を加えて頂いている。期日中に御意見があればぜひお寄せ頂き、いいアクションプランになると良い。

(4) その他

事務局より、各委員からの情報提供については、時間短縮を踏まえ、事務局までお寄せいただければ、事務局から各委員にお返しすることをお伝えした。

6 閉会

(杉浦委員長)

長時間のご討議をありがとうございました。本日の推進委員会はこれにて閉会いたします。ありがとうございました。